

経営比較分析表（令和4年度決算）

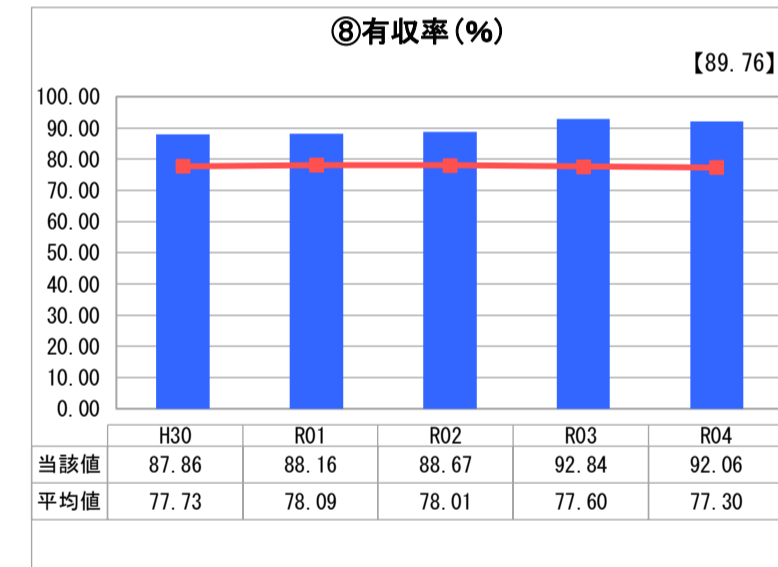
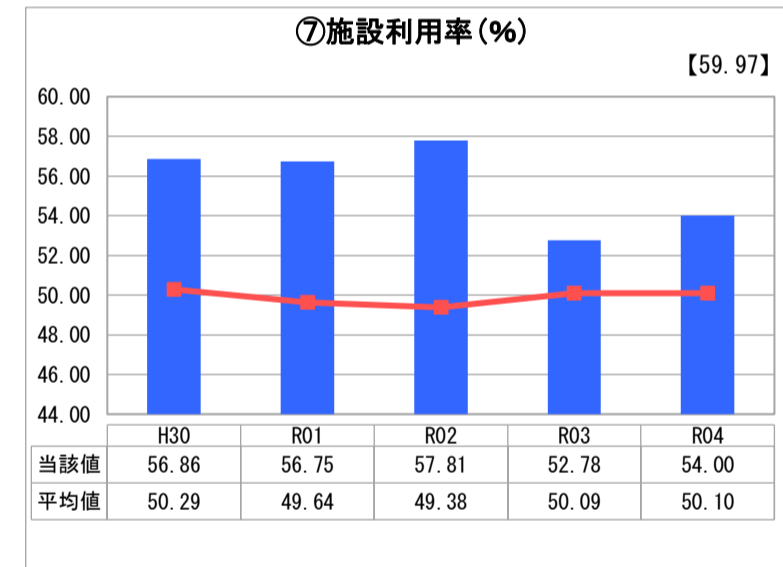
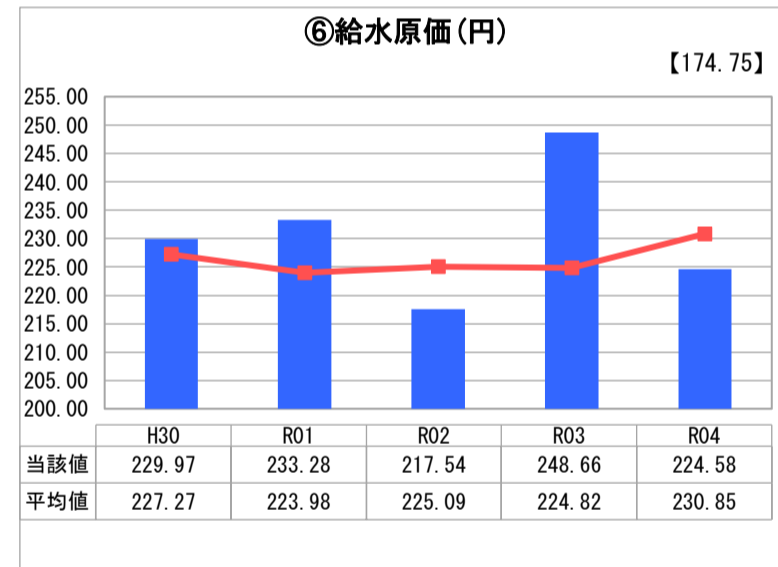
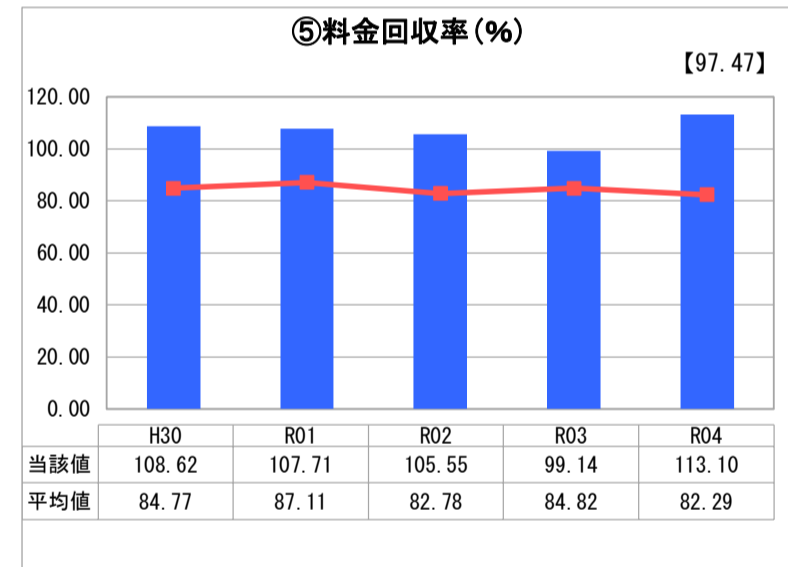
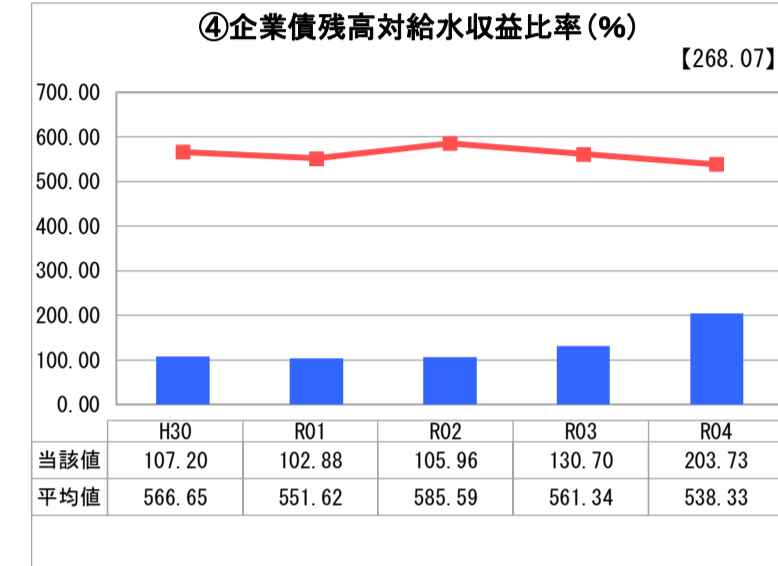
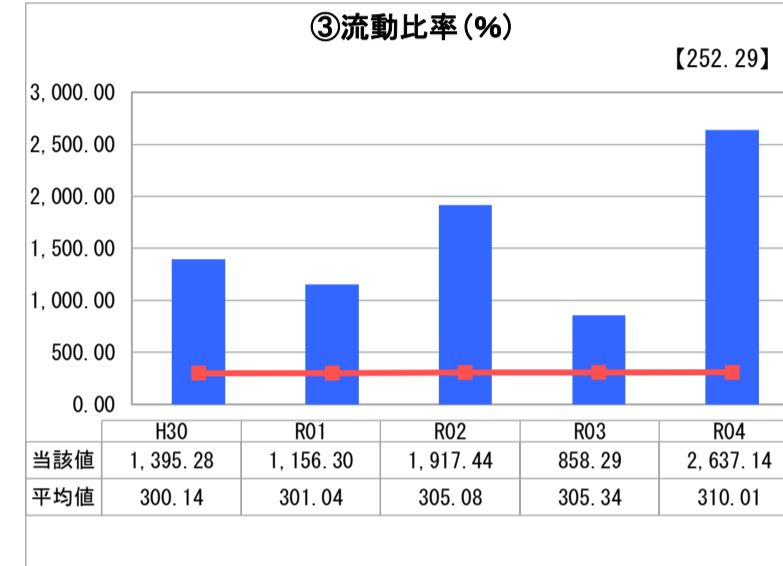
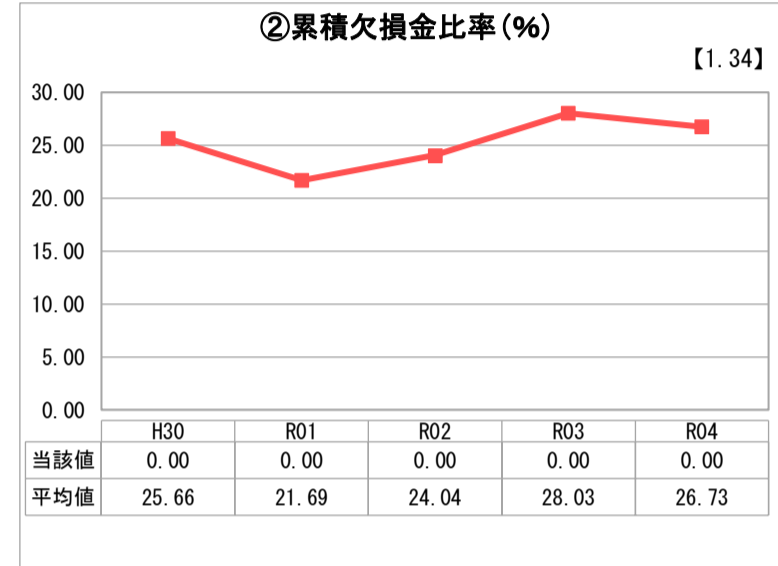
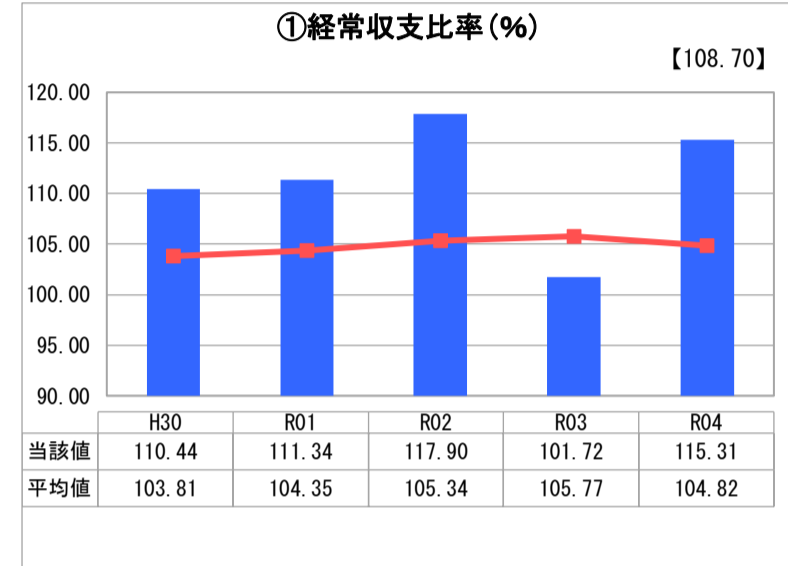
和歌山県 由良町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	83.49	99.87	3,976	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,282	30.93	170.77
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,243	29.18	179.68

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

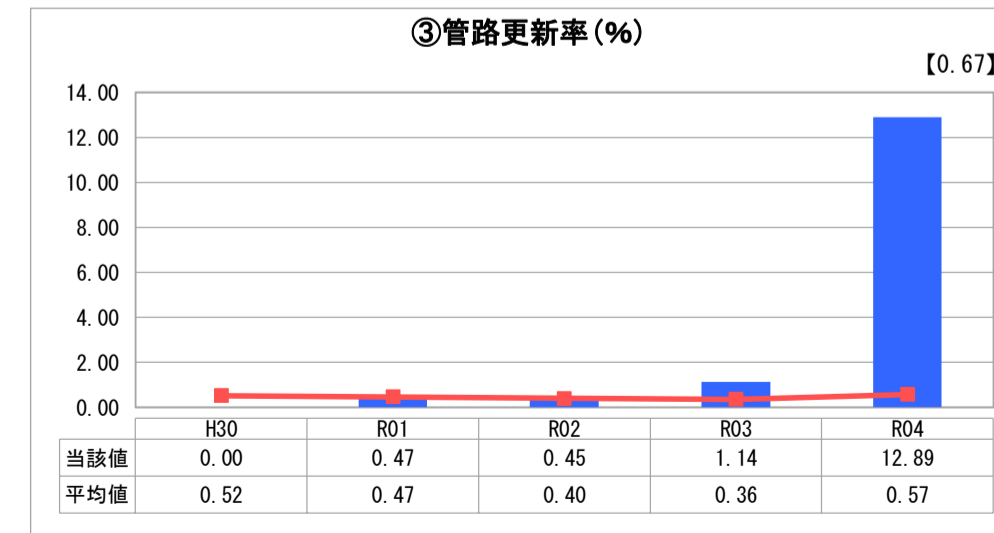
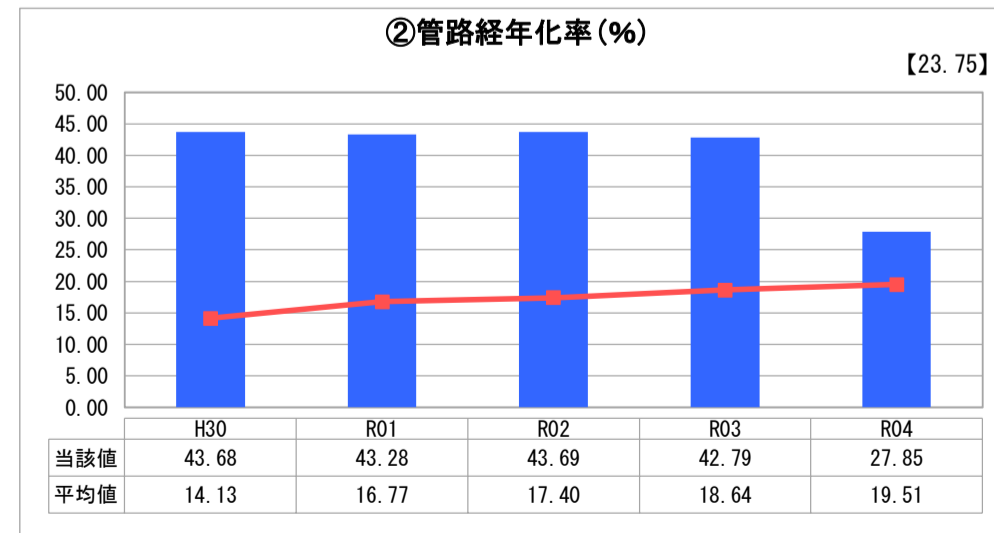
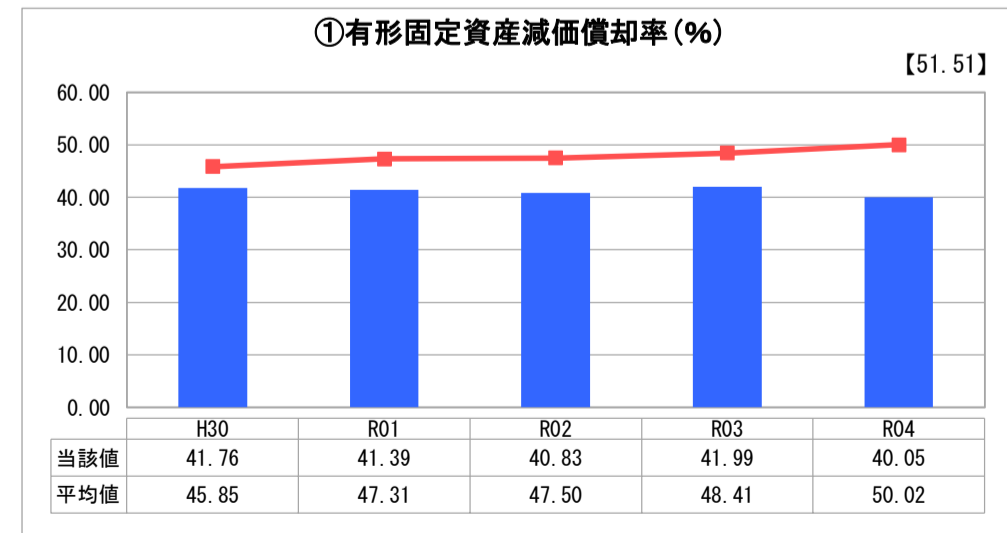
1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
昨年は指数が大きく落ち込んでいたが回復し、経常費用を経常収益で賄っており健全である。
- ② 累積欠損金比率
営業活動による累積した損失はない。
- ③ 流動比率
短期的な債務に対して支払う現金等がある。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
給水収益に対する企業債現在高は低く、更新等新たな投資にも対応できる。
- ⑤ 料金回収率
今年度指数回復し、給水に係る費用が給水収益で賄えている。
- ⑥ 給水原価
減少要因は、経常費用が減少した事による。そのため、類似団体平均値よりも低い数値であった。
- ⑦ 施設利用率
施設利用率は、類似団体と比較して高い。また、1日最大配水量にも対応でき問題はない。
- ⑧ 有収率
配水量が給水収益となる割合が類似団体平均値を上回っており、施設管理に無駄がないと考えられる。

2. 老朽化の状況について

昭和40年代後半に建設した管路が耐用年数を超過し老朽化が進んでいるが、更新投資も随時行い、適正に修繕を行うなど管路の長寿命化を図っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

人口減少に伴う給水収益の減、施設等の修繕費用増加などを見込み、利益剰余金を計画的に利益積立金へ積立て、将来にわたり経営の安定化を図っていく。